

## GEM オープンクエイクとアジアの地震リスク評価～Powering Asian organizations with GEM's OpenQuake tools～を開催しました (2015/03/13)

テーマ：地震，地震ハザード・リスク評価  
場所：災害科学国際研究所多目的ホール

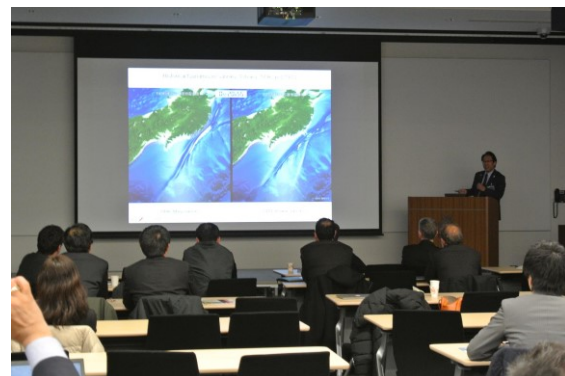
2015年3月13日(金)，災害科学国際研究所多目的ホールにおいて，GEM オープンクエイクとアジアの地震リスク評価 ～Powering Asian organizations with GEM's OpenQuake tools～（主催：東北大学災害科学国際研究所・GEM・防災科学技術研究所・応用地質株式会社）が開催され，当研究所から今村文彦所長，災害理学研究部門の遠田晋次教授・和田育子助教・岡田真介助教・丹羽雄一助教・石村大輔助教，寄附研究部門の福谷 陽助手の7名が参加しました。

本シンポジウムは，GEMが開発した地震ハザード・リスク評価支援ソフト OpenQuake とアジア各国が構築している地震データベースの情報交換およびその共有を目的とし開催され，雪が舞う中，80名の参加者がいました。シンポジウムの開始にあたって，当研究所の遠田晋次教授と米国地質調査所の Ross S. Stein 氏から本シンポジウムの趣旨説明がありました。シンポジウムでは4名の基調講演が行われ，日本・台湾・フィリピンの地震ハザード・リスク評価，地震対策についての紹介がありました。発表後の質疑でも活発な議論が行われ，各国での取り組みとその情報の交換・共有がなされました。シンポジウムの最後には主催4機関の代表からの挨拶が行われ，当研究所からは今村文彦所長（災害リスク研究部門）が2011年東北地方太平洋沖地震津波を中心に，事前の津波リスク評価と実際の津波被害の比較，震災後の復興計画などを紹介されました。

短い時間でしたが，活発な議論が行われ，本シンポジウムの目的であるアジアの地震リスク評価の取り組みの現状とその情報が多くの国の研究者と共有できました。また，シンポジウム前には多目的ホール前にて昼食会が開かれ，参加者同士の交流が行われ本シンポジウムの成功に寄与していました。



趣旨説明する遠田教授



講演する今村所長